

里山シンポジウム実行委員会統合企画からの「基本理念と目的」の原案提示です

この提案をする根拠としては、里山シンポジウム実行委員会には、分科会の no.12 に企画委員会があります。分科会委員長は金親博榮さん、委員は所英亮さんと荒尾稔の3人で構成されます。

今回、委員長からの要望に添って、原案を作成してみました。

以下をたたき台として、会員の皆様方からの幅広い意見交換が出来れば幸いです。

また、これで、規約案、理念・目的等の案ができましたので、これからは、事業内容・行動計画等の案を、皆様からお寄せいただければ、会を立ち上げていくための、主要な3つの要素が一応、案として出揃うことになります。

どのような事業や行事等を、この「里山シンポジウム実行委員会」として、実行できるのかを、さらなる議論を、致しませんか。

多様な判断すべき要素がたくさんあって、それがまだ十分に分かっていません。

同時に会員同士の肌で触れあうような相互認識や、合意形成が十分とは言いきれません。従って、ゆっくりとあせらずに、皆様方と議論を重ねて、その上で会としての意志決定を行えばと存じます。

現在、色々な議論がなされております。

【里山シンポジウム実行委員会（以下本会と呼びます）の「基本理念と目的」】（案）

【本会の基本理念と目的】

古来より日本の国土を保全し、人の手によって維持管理されてきた里山が、いま色々な原因によって崩壊する寸前です。

国民にとって親しまれ、近年急速に全国から消滅しつつある里山を、里山林と田んぼを主体とした里山環境を保全し創設していくこと、また生き物たちと共生し、日本の文化や教育、子育て等が支援できる仕組みを再構築することが欠かせません。

その目的を果たすために、現代の化学的で人工的環境を肥大化させてしまった文化や都市化を機軸とした文明を、生態学的な、自然的環境を大切にす文化、さらには生き物の力を機軸とする文明へと、再構築していく方向へ展開させる必要があります。

そのため、これまで様々な取り組みがばらばらに分かれて展開されてきた、都市と対峙した概念である里山空間を"地域環境"という、一体的なフィールドとして捉えなおします。

取り組み方としては、整備・開発・保全を基本とした姿勢から維持・管理や利用・循環を大切にす"ワイズユース"を基本とする姿勢へと改めることが必須となってきています。

里山シンポジウム実行委員会の目指すことは、このワイズユースという概念で、里山空間に接するための、

- (1) 啓蒙、研究、調査、データベース構築、提案、提言等を、市民主体に立ち上げていく事で、里山林と田んぼを主体とした里山環境を保全し創設していくこと、
- (2) 行政や関係先に提案や提言をしていく事を通じて、本来の地域社会の再生を担える事を本会の目的とします

【本会の活動】

千葉県内や日本の里山およびその周辺環境の保護・保全のための調査研究、広報活動などを会員の協力を基盤に、日本各地の諸機関と連帯して進めていきます。

里山及び周辺環境を保全するために、最適な方法は何かを市民を主体として、里山に関わる地権者、行政単位や大学の各研究室の皆様等とも連携し、三位一体によって一緒に考え、関係先に提言していく会として、存在します

【通常活動】

(1) 千葉県や、県下の市町村等行政への当会のメンバ間での情報交換等や独自の調査結果に基づき、また諸団体と協力して、里山の・保全・改善のための各種の要望や、提案、提言を行い、関係機関に働きかけています。

(2) 『里山シンポジウムを介して里山の所在と現状、問題点、行政への要望等を体系的にまとめ、データを整備していきます。県、市町村に蓄積されている里山に関する諸情報を整備して、データベース化を行い、千葉県民があまねく利用できるような里山データベースを整備していきます。また、里山を体系化する「里山目録」を、まとめ、里山の所在地を一同にまとめた目録を定期的に刊行し、千葉県下の里山全体をネットワーク化して、その再生と創造をめざします

(3) 『千葉県の里山保全・再生戦略 2005』(仮題)として、里山条例等の基本計画作りや事業施行計画等にも参画します。その『戦略』に基づく千葉県下における里山の保全と再生活動に参加します。

【調査研究活動】

(1) 国内における里山の系統的な現状調査・研究を行います

千葉県内にある里山及び周辺環境の現状を把握しやその分布や、地域ごとの特性、問題点、山武杉、田んぼ、農村の文化、行政や開発業者との関係、地域社会との関係、その生態的な特性、調査・研究を進めています。

(2) 里山の千葉県内、定点一斉調査の実施

まず、千葉県に所在する里山及びその周辺環境のデータベース構築を意図します。

千葉県の里山に関する情報を県、市町村、市民団体、個人等から系統的に収集し、基本的な里山情報体系を構築し、毎冬調査・報告しています。

その変化を把握するために、出来ましたら、テーマを決めて毎年1回以上の、各種項目に関する定点調査を行います。

(3) 定期的な聞き取り調査、アンケート等の実施も大切なことです

【広報・教育活動】

(1) 里山及び周辺環境、その多様な形態から発する生息環境の生物多様性の重要性を認識し、そのワイズユースを通じて市民の自立を促すような里山に関する教育啓発普及活動、並びにその支援を行っています。

(2) 県と共同しての里山新聞の発行、また独自に会報・研究誌を不定期に刊行します

(3) 里山に関する教育啓発普及活動

『里山を守る会キャンペーン』

里山及び周辺域の再生と創造を確実にしていくために、資金的に支援していただくとともに、里山及び周辺環境への関心を高めていただこうと、里山シンポジウム実行委員会では毎年里山及び周辺環境の里親(仮題)を募集していきます。各地で里親の集いも開催します。

【シンポジウム開催】

(1) 『里山シンポジウム』開催

千葉県と一緒にの里山フェスタの一環としての『里山シンポジウム』開催。千葉県各地や全国各地での、主に里山及び周辺環境に関する催しを開催し、会員の交流・学習及びその地域への啓発を目的としています。

(2) 『ゆみずたんぼの勉強会』(一例)

里山及び周辺環境としての、田んぼの生き物調査との併用による里山及び周辺環境での水田農業とガンカモ類との共生を目的に農業関係者と共に開催。

【メールマガジン・HP 立ち上げ】

(1) メールマガジンリスト (satochiba)

会員を中心に、里山及び周辺環境に関心がある方に参加していただき、それぞれの問題点と各地の里山及び周辺環境についての情報交換、啓発、学習、議論等の場として活用しています。

(2) メールマガジンの発行 (案)

会員向けに、メール上で一斉配布できるメール形式の新聞です。

月1回程度の間隔で、各種の情報を掲載した、メールマガジンを発行するよう考えたいかがでしょうか。各分科会単位で、月別に分担して、報告や行事予定等を掲載することも可能です。このメールマガジンを担当する専門のグループの形成も可能です。

ホームページ運用 (satoshinpo)

会としての公式 HP を立ち上げます。会からの多様な情報発信と、両方向性のメディアとしての、最新のホットな情報を流布し、シンポジウム等の記録をアーカイブとして記録し、情報を蓄積して、市民や諸官庁、各大学での研究資料としても活用できるよう整備していきます

【事務局、その他】

(1) 千葉県内に所在します。

(2) 仮想空間 (バーチャル) 上の、事務支援組織として里山情報センター

HP と WEB と、データベース構築によりバーチャルな里山情報センターを構築します。